
世界を廻る転生者

お前にネオレインボー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界を廻る転生者

【Nコード】

N0426Z

【作者名】

お前にネオレインボー

【あらすじ】

私が目を覚ますとそこは知らない場所だった

神（仮）曰く私は死んだそうだ

好きな世界と好きな能力をあげるから頑張ってくれと言ってた私の役目は各世界をハッピーエンドにする事だそうです。

それ以外なら何をしても構わない

最初はネギまの世界です。

プロローグ（前書き）

作者の自己満小説です。

ははーノリで書けばいいんだよと言っ事でノリで書きました。
すみません。

更新日は 月 水 金と大体この3日です。

本番は明日です。

プロローグ

「――？？？――」

「聞こえるか？」

「ああ、誰かが私を呼ぶ！」

「おい、返事をしろ」

「誰だろう？私を呼ぶ人は」

「いい加減起きろ！！」

「ん、ここは何処だ？」

「やっと起きたか」

「貴方はどちら様ですか？」

「俺はゼウス、神だ！」

「神？どこの痛い子だろうか？」

「痛い子じゃない、神様だ！」

「心を読まれた！？」

「どうやら神（仮）みたいだな。」

「神（仮）ってひどくない？」

「神様が私に何様ですか？」

「ん、そうだった、お前は死んでしまった」

「は？何言ってるんだこの神（仮）は？」

「お前は輪廻転生の輪から外れたイレギュラーだ」

「輪廻転生？」

「聞いた事ないか？」

「死んだら、生まれかわって、また死ぬの繰り返しだった気が？」

「お前はこちらの不具合でその輪から外れてしまったんだ」

『と言う事は元居た世界に生まれ変わる事はできないと』

「中々鋭いな、その通りだ」

「だから、お詫びに漫画等の世界に転送してやろう」

「おつと、その前に他の神も紹介しよう、おーい出でこい」

「やっと紹介ですか、初めまして天照大神と言います」

「オーデインだ………よろしく」

北欧神話と日本の神か

「あら、中々見所あるわね」

『有名な神々ですからね、覚えていますよ。』

「さっそく行く世界と欲しい能力を言ってくれ」

「悪いのは俺達だからな、欲しい能力全部あげよう」

何かと気前がいいな神（仮）

『遠慮しませんよ？』

「どんとこい」

頭脳はルルーシュ並み

筋力EX 魔力EX（無限）

耐久EX 幸運EX

敏捷EX 宝具EX

能力等は

スピリット・オブ・ファイアを持ち霊

アンサートーカー

ブリーチの卍解と鬼道全て

Fateの全宝具と宝石魔術とアンリマユ
アルファ・ステイグマ
複写眼

ギアス（絶対遵守の力）

直死の魔眼

一方通行と幻想殺し

大嘘憑き（オールフィクション）

ナルトの忍術等全て（万華鏡写輪眼含む）

ワンピースの悪魔の実全て（霸王色の覇気もおまけで）

リボーンの死ぬ気の炎と六道輪廻等。

PSP02iのテクニク全て。

RAVEのDB等全て

烈火の炎の八竜や魔導具等。

KYOの技全て

ネウロの魔界777つ道具とX^{サイ}変身？能力

金色のガッシュベルの呪文全て。

魔族召還！（サタン等）

妖刀全て

最後の鍵
グレード・グランド・マスターキー

を自由自在に操れると言う感じで！

転送世界はネギま

魔法世界が出来た瞬間、造物主は俺が作る！と言う設定でお願いします。

「……………欲張り」

「ここまで欲張りなのは初めてだな。」

『あ、後は』

「まだあるのですか？はあ」

『あなた達を本契約さして下さい！』

「え？お前今何言った？」

『え？本契約して下さいと言ったんだけど？』

「別に構いませんよ、人間の1人と契約しても」

「……………支障はないな」

「ま、いいだろう、血の契約だがいいか？」

『構いません。』

「……………割愛……………」

『ありがとうございます』

「では、転送しよう、ではな」

「お前の役目はネギまの世界をハッピーエンドで終わらす事だ」

「それ以外なら何しても構わん」

私にそんな役目があったのか…

「……………頑張れ」

「頑張ってくださいね」

こうして、私はネギまの世界？に飛ばされた

プロローグ（後書き）

どうでしたか？この駄文

誤字脱字は気づき次第直します。

1 時間目（前書き）

できれば原作重視で行きたいが
ノリで書く俺には必要ないかな？
主人公の本名が出ます。

1 時間目

『知らない天、天井すらないや』

『さてと、創造主作る前に鍛錬でもしようかな』
何せ原作開始数千年前からね。

『おっと、神の本契約の効果は何だろう?』

壱 物や生物あらゆる物等を作る事が可能(食べ物でも可能)
チートだな。

弐 銃の弾丸は魔法障壁無視&雷の暴風並みの威力がでる。
え?魔法障壁無視かよ

参 魔力A以下の魔法は吸収できる。
吸収?何それおいしいの?

『マジチートだな。ん?ポケットに紙があるな』
あおがみくろ
蒼神軀へ

あなたは不老不死にしているとあげたわ
じゃなきゃ、ナギ達が生まれる前に寿命で死ぬから♪
私達に感謝してね、

天照大神より♪

『そういえば不老不死を言い忘れたな』
あの作者め、ミスったな、いつか塵にしてやる。

『魔法球でも作って一気に修行しよう』

『魔法は、呪文の詠唱できないから、後々ゼクトに教えてもらおうと
しよう』

『他作品の技を完璧に使えるまで頑張るか』
時間設定どうしようかなあ…

『外1時間に対して魔法球の中は1000年にしよう』

『まずは、死ぬ気の零地点突破改をマスターしよう。』

そして数千年の時間が過ぎたかも知れない

『そろそろ創造主作って、エヴァを吸血鬼にしようかな』

『善は急げだ』

待っててねエヴァにやん！

現れよ創造主！

『ん？現れないな』

『おーい、聞こえるかー』

『その声は神（仮）か？』

『まだ（仮）なんだ、いいけどね！』

『それより、創造主は他の地方に飛ばしたぞ！』

『え？何で？』

『その方が面白いからかな？』

何で疑問系何だよ

『魔法世界に居るんだよな？』

『そうだ、旧世界だと滅ぶ可能性あるからな。』

『分かった、適当に探してみるわ』

『んじゃ、頑張れ』

『俺はこの数千年で他作品の技を完璧にマスターした』

これで創造主と戦闘しても絶対に勝てる

『待ってる創造主、お前は私の物だ』

フフフフ

1 時間目（後書き）

ノリが全てだ！

次回は創造主と会えるかも？

誤字脱字があり次第修正します。

2 時間目（前書き）

誤字脱字があり次第修正します。

2 時間目

軀side

創造主を探して数百年

『全然いませんね。』

ん？あの姿は？

『遠くてうつすらとして見えませんね』

白眼！！

『やっと、見つけましたよ創造主』

瞬歩で創造主の前まで移動した

『初めまして』

「あなたは誰？」

『君と同類の人種？です』

「そう、あなたもこの世界に絶望したの？」

『いえ、貴方に希望を見せましょう』

「そう、あなた如きで見せれるの？」

『なら、戦いますか？』

「燃える天空！！」

『約束された勝利の剣』
エクスカリバー

『王の財宝』
ゲート・オブ・バビロン

『天地乖離す開闢の星』
エヌマ・エリシュ

『破道の90黒棺』

ふう、オーバーキルしてしまったかな？

『ん？おおー生きてる』

「貴方本当に人間？」

『人間ですよ』

（チートだけど）

『貴方のお名前聞いてもいいですか？』

「時人^{ときと}」

「貴方は？」

『創造神、蒼神軀^{あおがみくろ}』

時人 side

この数百年私は旅をしてきた

旅をしても絶望だけしか残らない。

私を生み出した人は何を考えているのか？

『やっと、見つけましたよ創造主』

「貴方は誰？」

この人は誰だろう？

『君と同じ人種？です』

そうか、この人も創造主なのか

「貴方もこの世界に絶望したの？」

『いえ、貴方に希望を見せましょう』

「そう、貴方如きで見せれるの？」

『なら、戦いますか？』

この程度の相手私なら勝てる

「燃える天空！！」

『約束された勝利の剣^{エクスカリバー}』

『王の財宝^{ゲート・オブ・バビロン}』

『天地乖離す開闢の星^{エヌマ・エリシュ}』

『破道の90黒棺』

強すぎる。この人は一体誰？

不思議な魔法？を使う

私じゃなかったら即死よ

『んん？おー生きてる』

「貴方は本当に人間？」

『人間ですよ』

『貴方のお名前聞いてもいいですか？』

「時人^{ときと}」

「貴方は？」

興味があつた、私を初めて倒した人

『創造神、蒼神軀』
あおがみくろ

なつ、創造神？勝てる訳がない

私を作り出した主に。

軀side

キングクリムゾン

創造主と色々あつて

仮契約までしたよ。

時人には完全なる世界を一緒に作って頑張ってもらってる。
コスモエンテレケイア

私は旧世界に行って神鳴流を学ぼうと思う

さらなるチートを目指す為に！

学んだら、魔法世界に戻ってくるけどね。

いざ、京都へ。

2 時間目（後書き）

キングダムゾン便利だね。
創造主の名前は悩んだね
数分だけww

3 時間目

軀side

ここが京都か
いい町だなあ。

関西呪術協会にとつと行きますか。

『たのもー』

「どちら様でしょうか？」

『神鳴流を学びにきた軀といいます』

「では、師範代を呼びますので

お待ち下さい」

師範代？誰だろうか？

『分かりました』

待つこと数分

「お待たせしました

私が神鳴流師範代

青山空吾といえます」

『私は蒼神軀といいます』

『早速ですが、お手合わせ願います』

「分かりました」

「門下生も見学しますが

よろしいですか？」

『構いません』

よし、師範代と戦える

フルボッコにしよう。

「これより、青山空吾VS蒼神軀の試合を始めます」

「よろしく願います」

『よろしく願います』

「開始！」

「神鳴流奥義

雷光剣」

『幻想殺し』

いきなり、奥義出しますか？普通

雷光剣』

「な、何！？一回見ただけで出せるだと」

「神鳴流奥義、極大雷光剣」

『一方通行』

また奥義かよ

『極大雷光剣』

「また模範された？この青年は一体？」

『この程度ですか？』

「神鳴流決戦奥義、真・雷光剣」

『大嘘憑き』

「今度は消えた？」

「この試合私の負けです」

この青年を近衛の守護者にすれば

関東等ひねり潰せる。

『ありがとうございました』

キングクリムゾン！

数年の時間が流れ

私は近衛の守護神と呼ばれるようになった

そろそろエヴァにやんに会いに行こうかな？

「話とは何だ？」

この人は近衛喜助

現近衛家当主だ

『実は、修行の旅に出たいと思ひまして。』

近衛家の人には私が不老不死と言う事実を伝えている

『その為に許可をお願いします』

「分かった、お主は近衛家に尽くしてもらった恩がある」

「何年の旅になるのじゃ？」

『数百年ほどの旅になるかと』

「お主の事は子孫に伝えねばならぬ

紙にでも書いて伝説の神鳴流剣士として
記載しておこう」

『ありがとうございます、当主様』

このカスに仕えるのも最後か

権力しか脳のない奴が

もつとマシな奴が当主になればいいのに。

『明日旅立ちます。』

「今日は宴にしよう」

『分かりました』

こうして私は魔法世界に行つて

エヴァにゃんに会いに行くのだった

次回はエヴァにゃん

3 時間目（後書き）

誤字脱字があり次第修正します。

会話だけ見れば近衛喜助はいい奴なんだけどなあ
キングクリムゾンの間に色々あったんだよ。

4 時間目

エヴァ side

「父さま? ……」

母様?」

「フフフ成功だ

吸血鬼の実験は成功したぞ

これであのお方に会えるかもしれない」

こいつが父様と母様

そして私を吸血鬼にした人物

憎い憎い伊藤誠並に憎い

「ぐっ、まだ動けたのか小娘」

殺してやる伊藤誠の様に惨殺してやる

「ぐはっ、あのお方に会うまでは死なない」

「ぐはあ」↑気絶

「仇は倒したけど、あのお方って一体」

パリン↑硝子が割れる音

「だ、誰?」

『間に合わなかったか』

こいつも敵だ!

倒す倒す殺す

『グハッ』

また殺してしまった。

これからどうやって生きようか

軀 side

やばい、そろそろ時人が動き出す

エヴァにやんの城はあれか。

間に合え!

パリン

目の前には

倒れてる

エヴァの母と父

そして時人の姿

『間に合わなかったか』

『グハッ』

いきなりエヴァにやんに刺されるとか…

『いきなり刺すとはひどい人ですね』

「え？何で生きてるの？」

『貴方と同じですよ』

『貴方を助ける為に来たんですよ』

「私を助ける為？」

『私と一緒に来ますか？』

来てくれエヴァにやん

「分かった」

よし、幼女GETだぜ！

『早速この城から逃げますよ』

時人には悪いが、この場は逃げますか

中々歪んだ成長をしましたね。時人

「何処行くの？」

『世界を旅して、力を付けて貰います。』

『私がない時に狙われたら大変ですからね。』

ゼクトはもう生まれてるな

ゼクトに魔法を教えて貰うか。

『まずはゼクトと言う人物に魔法を教わりましょう』

こうしてゼクトに会いに行く為世界を旅するのであった。

4 時間目（後書き）

誤字脱字があり次第修正します。
時人出番少ないなw w

5 時間目

軀side

エヴァと旅をして数年。

一向にゼクトが見当たらない。

一体どこにいるんだろう。

そうそうエヴァに兄様って呼んでももらえるようになった

俺はキティって呼んでる

人前ではエヴァだけだね。

道中正義（仮）の魔法使いがよく来るようになった

そんな奴は幻想殺しと大嘘憑きで消してるけどね（存在事）

キティには見せてないよ

目隠ししてるからね。

『一体どこにいるんだゼクト』

「呼んだか？」

ん？誰かの声が聞こえた気がする…

「青年よ儂を呼んだか？」

『もしかしてゼクトさん？』

「如何にも儂がゼクトじゃ」

『やつと会えた』

私はそのままゼクトにダイブ

「儂はそっち系の趣味はない」

一蹴された。

「で、青年よ一体何様じゃ？」

目的を忘れる処だった

『私とエヴァに魔法を教えてください』

「ふむ、暇つぶしにはなるかの」

「いいじやろう、付いて来い」

「して、御主達得意属性は何じゃ？」

「私は氷と闇」

『全属性です』

「バグキャラめ」

「兄様バクキャラって何？」

何と言う無垢な幼女だ！

眩しすぎる

『私みたいな存在の事だよ』

「修行場所はどこにするかのう」

『あ、私魔法球を作ってるんでそこでいいですか？』

「外1時間に対して中は何時間じゃ？」

『中は1000年です』

「お主はバグじゃなくチートキャラだな」

そんな事言わないで私のライフはもう0よ

「ま、いいじゃろ早速修行開始じゃ」

こうしてゼクト師匠の修行が始まった。

5 時間目（後書き）

誤字脱字があり次第修正します。

一体原作開始はいつになるんだろう？

6 時間目

ゼクトside

弟子が二人か：

一人は才能ある少女

もう一人はチート&バグキャラ

魔法教える必要があるのか？

魔力も多すぎるし

最低限の事は教えておくか

「これより魔法の修行に入る」

『パフパフわーかつこいいー』

ガン！

『殴らなくてもいいのに…』

「いや、なんとなくむかついた」

『最初の修行は何ですか？』

「初心者用の杖を持つて

ブラクテ・ピギナル・火を灯れ（アールデスカット）」

ポー

『おおー火が出た』

「ライター使った方が早いんじゃないかな」

「次は御主達じゃ

まずはエヴァから」

「ブラクテ・ピギナル・火を灯れ（アールデスカット）」

ポー

『師匠よりは火の出力が弱いね！』

「まあ、いきなり成功は上出来じゃな」

「次は軀じゃな」

『ブラクテ・ピギナル・火を灯れ（アールデスカット）」

ゴワーーーーー

「火炎放射並みの威力じゃな」

「兄様凄い…」

『熱いんですけど』

「次の魔法は風の魔法であの岩に攻撃じゃ」

「風よ（ウインテ）」

ゴン

『岩に切れ目が入った』

「さてエヴァやってみるのじゃ」

「風よ（ウインテ）」

周囲に風が起こった

何もなかった…

「まあ、コントロールの問題じゃな

次は軀じゃ」

『風よ（ウインテ）』

ゴゴゴゴゴゴゴ

その瞬間地震が起こった

「風の魔力が集まりすぎじゃー！！

早く拡散するんじゃ

このままじゃと魔法球が壊れる」

このチートキヤラめ

『拡散！ふう、危なかった』

「危なかったじゃないわこのほか者」

もう少して死ぬ処じゃったぞ！

「御主達は筋がいい、一人は別じゃが

魔法の射手を教える前に始動キーを考えてくれ」

「始動キー？」

「呪文の前に唱える物じゃ

発動の威力等は上がるから便利じゃぞ」

「今日はここまでにしておこう

主に一人のせいで疲れたからな」

『エヴァ師匠を困らせたらだめだぞ!』

「お主じゃこの馬鹿弟子が!」

ガン!

『不幸だ』

「……………一夜が過ぎた……………」

「始動キーは考えたか?」

「うん」

「軀は?」

『バツチリさ!』

『「リック・ラク・ラ・ラック・ライラック」』

一緒か

「まあ、いいじやろう

魔法の射手は下位呪文じゃ

威力は一発素手の一発と同じ威力じゃ」

「よく見ておくがいい

光の精霊17人集い来りて・魔法の射手・連弾・光の17矢」

ズガガガガン

岩が砕けた

「凄い!」

『威力高!!!』

「ではエヴァからじゃ」

「氷の精霊17頭、集い来たりて敵を切り裂け・魔法の射手・連弾・

氷の17矢」

同じく岩が砕けた

『次は私の「お主はやらなくていい」』

え?

ホワイ?

『なぜですか師匠』

「お主は中級&上位魔法の書でも読んでおくのじゃ」
そっちの方が効率がいい気がするしの

『ちくしょー神様のバカヤローー』

神と友達だった俺……

『ゼクトのバカヤローー』

「あ、兄様！」

「エヴァ次は違う呪文じゃ」

スルーされた！？

『師匠質問！』

「何じゃ？」

『その魔法書はどこですか？』

「自分で探すのじゃ」

つ……冷たいだと

これがツンデレ

「分かったらさっさと行くんじゃ

くれぐれも威力は低めにな」

こうして俺はゼクトに見放されたのであった E N D

『おわらねえよ』

『こうなったら、ネギが未来で使ってた魔法を覚えてやる！』

主に闇の魔法等だが……

6 時間目（後書き）

誤字脱字があり次第修正します。

主人公の性格が分からない作者です。

口調も安定してません。

Xの細胞^{サイ}の変化と言う設定でお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0426z/>

世界を廻る転生者

2011年12月2日16時45分発行